

石越コミュニティだより

発行責任者 石越コミュニティ運営協議会会長 佐々木 敬次

石越「人・里山」みんな元気になるまちづくり教室開催

1月20日(土)に17名が参加し、石越「人・里山」みんな元気になるまちづくり教室が開催されました。(公財)日本生態系協会の研究所副所長 亀田聡氏が講師となり、五感を生かした人と自然の関わりについて学びました。まず、石越の昔・今・これからを皆で話し合い、その後実際に遠沢、長根地区を受講者全員で歩きました。石越のことを知り、石越をもっと好きになるための“きっかけ”づくりとなりました。次回は2月10日(土)午後1時半から、「石越の自然を将来に引き継ぐためにできること」と題し亀田氏の講演がありますので、興味・関心のある方は是非お越しください。



本寄贈される

小野寺堯氏(第1区)より皇室写真集「株式会社附扶桑社刊」4冊が、図書館蔵書として寄贈されました。ありがとうございました。



2・3月の行事予定

- 2月 2日(金) 健康マージャン教室〈9日、16日、23日の毎金曜日〉
 - 2月13日(火) 郷土史講座④〈創立145周年を迎える石越小学校の歩み〉
 - 2月24日(土) 子育て倶楽部③
 - 2月27日(火) 郷土史講座⑤〈前九年合戦と金氏の遠祖を尋ねる〉
 - 3月 2日(金) 長生大学⑧〈閉講式・体験発表〉
- いきいきシルバー生きがいまつり

編集後記

新年交歓会を開いたところ、合併後では最高の90人に参加して頂き、ありがとうございました。社協石越支所からのお話の中で行政区別の65歳以上人口と高齢化率(平均で33.8%)次に昨年9月に実地した「アンケート調査」では、【現在困っている事】【誰かのために現在できる事】外出送迎、草取り、掃除などのすべての項目でクリアしていると報告がありました。

団塊の世代(昭和22~24年生まれ)が後期高齢者医療に移行になる2025年が社会保障費のピークになりますが、健康長寿3つの秘

訣が①コミュニティ事業などの社会参加②基礎体力を維持する運動③栄養のバランスの良い食事とされています。

インフル患者 大流行

26日宮城県では、定点医療機関から22日までの1週間に報告されたインフルエンザ患者数を基に定点当たりを求めると38.2人になり、今季初めてなる警報を発令した。

登米市の定点当たりは、インフルエンザ大流行を示す警報レベル30人を超え43.2人。感染予防の基本である手洗い、うがいを心がけ、喉のエチケットにも気を付け、マスクを着用しましょう。(佐々木)

本年もよろしくお願い申し上げます

石越コミュニティ運営協議会 会長 佐々木 敬次



大寒も過ぎました。身の縮むような寒い毎日ですが、皆様にはお元気で過ごしのことと思います。また、日頃、本協議会に対しまして温かいご支援ご鞭撻をいただき、御礼申し上げます。

さて、本協会が今年3月で、公民館運営管理指定を受け満5年になりました。4月から引き継いで5年間指定管理を受けることになりました。

これまで、本協会・公民館は「集う場所」「学ぶ場所」「つなぐ場所」ということを肝に銘じて運営してまいりました。計画と実践、評価の全ての段階で、皆様のお力とご指導をいただき、高い評価を受けるような事業も数多く展開することができました。改めて、御礼申し上げます。

本年はこれまでの実績や経験を糧に、新たな気持ちで運営、事業の質や内容のワンランク上を目指して、スタートする年にしたいと思っております。

また、10月には高森公園にパークゴルフ場が完成する予定ですが、登米市や石越の活性化のために、運営や活用はどうあるべきか課題になると思っていますし、大きな期待をしております。

超スピードで進行する、少子化や高齢化など、課題は多いのですが「石越に住んで良かった。」と思えるような「コミュニティづくり」を皆さんと共に、尚一層推進したいと考えておりますので、本年もよろしくお願い申し上げます。





光輝く石越光のページェント

1月10日(水)～15日(月)開催

石越コミュニティ運営協議会では、今年度も石越公民館南北壁面に小野寺昭喜氏(第2区)の提供を受け、石越コミュニティ役員、文化部部員が装飾しました。豆電球は昨年よりも5千個多い2万個飾りました。

1月10日(水)午後4時半から行われた点灯式は、小・中学生、地域住民、コミュニティ役員など110人が出席し、小学生の代表がスイッチを押し点灯しました。点灯と共に登米市消防団ラッパ隊12名の演奏があり、光と音により盛会に開催されました。点灯式では佐々木敬次会長の挨拶、平塚貢中学校長の祝辞、中学生佐々木碧美さんが代表の言葉を述べ、「中学の先輩が地域の人々に関わりを持ちその提言により、光のページェントが開催されたことは私たちにとって大きな励みです。」とあいさつを述べました。



新年交歓会

1月6日(土)の平成30年新年交歓会に90名が出席し、盛会に開催されました。

熊谷盛廣市長、佐藤敬県共済組合長、只野九十九、渡辺忠悦両県議会議員、岩淵正弘、曾根充敏両市議会議員など多くの来賓や町内各団体長や地域の皆さんが参加され新しい年の地域づくりに向けた意見交換が行われました。

佐々木敬次会長の開会の挨拶の後、熊谷盛廣市長年頭の挨拶では、「登米市の30年度予算は前年度と比較して10億円の減額となるが、行政ニーズを的確に捉え、良質なサービスを効率的に提供したい。そして、石越のように地域づくりやコミュニティ活動が活発で、活性化している地区が多くなることが大変重要である。」と話がありました。

団体からの活動抱負発表では社会福祉協議会石越支所の阿部美登利所長と小野寺ひろ子さんが、登米市生活支援活動体制整備事業など石越支所の活動を紹介しました。

アトラクションでは新春にふさわしく、石越謡曲同好会の皆さんにより、式三番「高砂・養老・老松」を披露されました。



4 プリ養成塾

「もちつき大会とチャンバラごっこ」12月27日(水)参加者数：42名

「閉塾式」1月20日(土)参加者数：38名

「4プリ養成塾⑧」は、もちつき大会とスポーツチャンバラを実施しました。はじめは慣れない様子でスポチャンを行っていましたが、徐々にコツをつかみ楽しく活動することができました。また活動後は指導者の皆さんが用意してくれた餅つきを実施。自分達でついた餅はとても美味しく、お腹いっぱい食べました。



閉塾式は、今年度まとめとなる論語やわらべ歌の学習をしました。「かごめかごめ」など昔から伝わる代表的なわらべ歌の世界にふれる機会となりました。また塾生それぞれに修塾

証書を授与し、佐々木塾長、曾根議員、指導者代表として佐々木忠雄さんより励ましのお言葉を頂き、和やかな閉塾式となりました。

その後、修塾記念紅白対抗遊び合戦と題し、バレーボールやドッジボール、キックベースボールなどをし、楽しく今年度の活動を終わることが出来ました。



長生大学

1月16日(火)第7回学習会延べ参加者67名
[選択授業]音楽わらべ歌で脳トレ参加者40名
体育ユニカールを楽しもう参加者27名

体育ではユニカールを体験しました。初めての方も何人かいましたが、何度か練習するうちにコツをつかみ、楽しく競技する事ができました。

また音楽ではわらべ歌に合わせて手遊びやトーンチャイムという楽器で演奏したりと終始笑い声の絶えない学習会となりました。



コーラスともだち

犬のお腹はハッハハハ、腹筋使ってハッハハハと楽しい発声練習から始まるコーラスの友達現在25名の仲間が居ます。健康作りそして笑顔の社交場で楽しいですよ。小野寺千恵先生も仲間ですから心強いです。毎月第二第四月曜日午前10時から公民館のピアノ前で歌っています。実はもっと会員が欲しいのです。声が多くなって豊かな歌になると思うのです。

男の方も歓迎します。さあ一緒に歌いましょう。石越のみんな友達のコーラスです。

サークル紹介

